

21

『大同類聚方（寮本・延喜本）』に見える
古代朝鮮の国名と関係のある薬方

後藤 志朗

神奈川県平塚市

桓武天皇の生母・新笠は、百済系の和史乙繼の娘である。天皇は、延暦25年（806）3月17日に没している。その時、右大臣の神王に、新しく導入された隋・唐の医方でなく、わが国に残る伝承薬を撰集するように遺命したことが、『大同類聚方』編纂の始まりである。

ところが、桓武天皇の遺命を宣った神王が桓武天皇の後を追うように4月24日に没している。

神王が没したため、再度、平城天皇による詔が宣われた。『大同類聚方』は、大同3年（808）5月3日に上表文を添えて、平城天皇に上奏されている。その時の条文が『日本後紀』に残っている。

『大同類聚方』を偽書であると、『奇魂』の中で断定した佐藤方定は、嘉永元年（1848）に、佐藤自身が真本と認める欠字のない『大同類聚方（寮本・延喜本）』を発見している。

佐藤方定は、発見した『大同類聚方（寮本・延喜本）』を底本にして、延長本・寛仁本の『大同類聚方』、『古事記』、『姓氏録』、『延喜式神名帳』などを用いて、欄外に校異を施した。それを『勅撰真本大同類聚方』と命名して、安政3年（1856）より刊行を始めている。

佐藤方定が真本と認めた『大同類聚方（寮本・延喜本）』の中に、古代朝鮮の国名と関係のある薬方を16見出すことが出来る。

これらの薬方の若干を、すでに三木榮博士は『朝鮮医学史及疾病史』（自家出版）に記載している。この本の中で、三木博士は、「大同類聚方」に信拠に値する一本が若し出現するならば、半島医方・薬品・医人の流伝の様相が或る程度進んで把握し得、引いては一般正史上にも資するところがあるかと思われる、と述べられている。

佐藤方定が発見した『大同類聚方（寮本・延喜本）』には、唐の高宗の皇后・則天武後の用いた武周新字（則天文字）の国・年・月も使用されている。

古代朝鮮の国名と関係のある薬方を報告する。

- ①志路木薬：新羅國鎮明之伝方 大和國高市郡波多神社所伝之方 元衣通日女命乃牟土加是乎病美給不時用為給日天愈多流薬
咽腫礼痛美弓於茂能通良受保天里於楚解安流者二用羽倍之
- ②登富津薬：新羅罔林元武等之伝方 筑前國那珂郡宮崎宮仁伝多留也
咽重支登赤久腫疼木保呈理弓腐爛流々者二用倍之
- ③新楽久迹薬：新羅國人楊公明 難波高津宮二坐治天下天皇御世貢調乃時奏之上流所之方也
暑爾中天食乎吐寒介立面色青九足冷者二用為天宜木方
- ④大宇羅薬：安陪朝臣男成安陪朝臣常嶋等所上奏之方 元八新羅之林敬明之伝之方
阿多腹病身熱久痛盛爾之天吐飲食乎手足比盈天痛美不止者仁用為天善薬
- ⑤晋羅忌薬：新羅之海部乃伝流薬方
美大利瘡二天手足腐眉毛落流二到无止須流者二用為天能久寸利
- ⑥空摠薬：大可波加羅國乃連源之家仁所伝之薬
酒多飲天咳不断身熱久小便赤久大便瀉下利天数月乃后口中惡臭久黃痰濃久塊乃物乎吐日夜不臥口燥木食不通足腫痛无者二毛智亥天与軌工遼隣
- ⑦足山薬：韓國連大川之方
美大利瘡手足癢久紫血皮表二浮腫痛乎不知者二用于流久須喇
乱瘡乃掛薬：同人の方